

人々の毎日をつくる

横手明峰中学校 山下 心夢

新型コロナウイルス感染症の猛威は、ようやく徐々に、影を薄くしています。

身の回りの人たちが、日本中の人たちが、そして世界中たくさんの人たちが苦しめられました。感染してしまった方々やその家族の苦しみ。経済的に打撃を受け、生活が成り立たなくなってしまう方々の苦しみ。直接、間接を問わず、多くの被害者を出しました。

私の学校生活も、それまで当たり前だったものが、次々と無くなっていきました。みんなマスクを付け、声も小さく、無表情でした。

「この状態はいつまで続くのだろう。いつまで我慢したらいいのだろう。」

いつもなら、聞けばすぐに答えてくれる周りの大人たちも、「分からない」としか答えてくれず、恐怖心がますます高まりました。

そんな苦しい日々の中で聞こえてきたのが「ワクチン」という言葉でした。

新型コロナウイルスが自由に開発され、一筋の希望の光が差しました。しかも、国民全員が無料で受けられるそうです。全国にワクチン接種がどんどん広がっていきました。二回目、三回目と継続していきます。私はこのワクチンのおかげで、今の状況までの回復があるのだと思います。ワクチンに救われた人が、いったいどれほどいることでしょうか。

私はそこでふと考えました。一億人以上が暮らすこの国で、なぜワクチンの無料接種ができるのだろうか。それも定期的に何度も。それは「税」のおかげでした。普段、税率が上がった時などの不平の声はよく聞こえてくるものの、税に感謝する言葉はあまり聞こえてきません。でも私は改めて、税の制度が機能しているありがたみを感じました。コロナウイルスに苦しめられて初めて、その恩恵の大きさ、ありがたさを実感しました。今回のコロナ禍で税の価値や意義を再認識した人は私だけではないはずです。もしワクチンが有料だったら、ここまで沈静化させることはできなかったのではないのでしょうか。

コンビニで何かを買う度に払っている税金。働いてお金を稼いでも、所得税や住民税として給料から差し引かれる税金。日頃は厄介者にされがちな税金。でも、コロナ禍を機に、その大切さを自分事として理解しました。

また、私が住む秋田県横手市には福祉医療費制度があります。十八歳までの高校生、六十五歳以上の高齢身体障害者の方などが対象となっています。この制度のおかげで、対象者は保険適用医療費の自己負担分を支払わなくて済みます。我が家もこれまで、何度助けられたか分かりません。私が風邪を引くたび、ケガをするたび、お世話になってきました。

苦しい人、辛い人を助けるのが税です。自分が納める税金が、今も知らない誰かの命を、生活を助けてるかもしれないかもしれません。失ったものの多いコロナ禍でした。しかし、今までは無機質な印象だった税が、私の中で「優しさに満ちた税」に変わった機会でもありました。